



# Snowmonterey + 1

## 合格おめでとうございます

今シーズン新たに準指導員・指導員の資格を取得された方のスキーに寄せる熱い思いを綴っていただきました。ありがとうございます。

~~~~~

準指導員合格までの道のり

準指導員合格 今井 祐介

この度、周囲の方々のご指導のおかげで準指導員に合格する事が出来ました。本当にありがとうございました。

思い返せば、私が本格的にスキーに取り組み始めたのは、尊敬する方(skier)に勧められ、長女をばんけいスキースクールに入校させたのが始まりでした。しかし待ち時間の苦痛から「自分もスクールに入ってみようか」と思い立ち、勢いで申し込んだまでは良かったのですが・・・カービングは初めてだったので、それはそれはボロクソに言われました。悔しさからなのか、ハマりやすい性格が災いしてか、すっかりスキーの虜になってしまい、妻にもあきれられる程。級別も興味が無いと言いつつ、2⇒1 級と挑戦する事に。次は準指導員。またまた興味無しと言っていたはずが、前述の尊敬する skier の敷いてくれたレールにすっかり乗っていた私は、石狩連盟のお世話になる事になりました。

落ち着く暇もなく やってきた理論検定。しわの無くなった脳みそには、かなりキツくしかも合否が分からない。そんな中での実技講習。要求される技術レベルに追いつけず悩む日々。練習すればするほど出来ていた事が出来なくな

る悪循環。疲弊したココロを妻に癒してもらおうと、家に帰ると逆に叱責される始末。意外に掛かる費用に、今年度で決めると強迫的言動をあげせられ・・・。プレッシャーに潰されそうになりながら迎えた本番。先生方の本番直前までの熱い指導と、勇気づけられた応援。そして共に切磋琢磨してきた仲間たちのおかげで指導者の仲間入りを果たす事が出来ました。妻もご機嫌です！

再度、ここまで仕上げて頂いた先生方に感謝すると共に、今後少しでも石狩連盟のお役に立てる様、更なる努力をしていきますので、改めてよろしくお願い致します。



わたしにとってのスキー

準指導員合格 田中 幸子

わたしは雪なし県の出身で、北海道へは主人の転勤で来ました。そんなわたしがスキーに出会ったのは中学の卒業旅行として部活の先生がレンタカーを借りてみんなを連れて行ってくれた時でした。最初転んでばかりだったのが、少し滑れるようになり、すごく楽しかったのを今でも覚えてます。もっとスキーをやりたいとは思っていましたが、雪なし県ではなかなか難しく。

そんなわたしにも主人の転勤で、北海道に住む機会がやってきたのが9年前です。最初は一緒に滑る人もいなく、下手で一人では滑れない

しと思い入ったスキースクールでしたが、だんだんと上達するのが楽しく、はまってしまいました。スクールで習う中、修学旅行生と一緒に滑ったり出来たらな～と思うようになり、まずは簡単ではなかったですが、なんとか一級を取得。その後、準指導員を目指すことに。

わたしの準指導員検定への挑戦は4年という長いものになりました。その間、主人の転勤で道外への引越しがあり、教程も変わり、スキー場探しから、仲間も知っている先生も居ない環境からのスタート。振り返ると大変だったとは思いますが、そこまでしようと思う魅力がスキーにあったから出来たのだと思います。北海道への転勤の際も、今回の転勤もそうですが、何もない状態で新たな土地に暮らす上で、スキーを楽しむこと、検定や上達という目標があること、スキーを通して多くの方との出会いがあったことなど、スキーをやってよかったと思います。また、検定については長い時間かかった分、応援してくれる方々が増え、ありがたいことに今年も多くのお力、いろいろなお力をいただきました。城戸部長、大江先生はじめ石狩スキー連盟の先生方や受験仲間のおかげでここまですることが出来ました。本当に感謝しております。

今後は修学旅行生やお子さんたちにスキーが楽しいと思ってもらえるお手伝い出来るよう頑張らつつ、スキーを楽しみたいと思います。

スキーで健康に

準指導員合格 佐藤友亮

私がスキーを初めて履いたのは10歳で、ばんけいスキー場のハーフパイプが作られたあたりでした。あまり良い思い出ではありません。時は流れ、スキーをすることもなくなりました。更に時は流れ、高血圧に悩まされる中、大学で体育の単位が足りずスキーをしなければならなくなりました。体育の単位を取

得したら止めるつもりだったのですが、正巳先生や三上先生の激しい指導によりなんと「血圧が正常値」になり、「井山先生に指導」頂き続ける事にしました。

その頃から何か目標をと準指導員検定に申し込み、就職後も申し込み…そして今回、人生最後の準指導員検定に石狩スキー連盟から挑み、大江理事長、城戸部長はじめ大変お忙しい中指導頂いた井山先生、夜遅くまで指導頂いた池脇先生、鷲尾先生、石狩スキー連盟の諸先生方々のお力添えと、一緒に練習・受験した今井さん、藤田さん、近井さん、芦田さん、服部さんのお陰でついに合格出来ました。本当に感謝の気持ちで一杯です。有難う御座いました。血圧も正常値で非常に体調が良いです。滑りの方は、今冷静に振り返ってみると指導して頂いた内容の3割しか身に付けられず、猛練習した割にあまり上手くなれませんでした。問題点がどっさりあり、問題の箇所が良くなったら他が悪くなるの繰り返しで、合格出来たのは偶々運が良かっただけと痛感しています。ともあれ3年後の指導員検定で合格する為に、教程と各年度のテーマを暗記ではなく理解し、指導頂いた内容を、練習を重ねることで身に付け、指導員に相応しい人間性と指導力を身に付けなければなりません。

私はスキーを通して仲間が出来ること、何よりも健康を維持できることが重要だと思います。スキーはお金がかかり過ぎますが、携帯電話・スマートフォンなんか置いて、スキーを手に入れスキー場に行くことで精神衛生面、肉体的にも健康になりました。同じようにスキーで多くの方に健康を手に入れて欲しいと思います。



準指導員検定を通して

準指導員合格 藤田俊則

僕が準指導員検定に合格できたのは、強化教育部のスタッフの皆様と養成講習会に参加していただいた諸先輩方の優しく、熱心な指導のおかげです。心から感謝しています。僕が思う検定に受かるコツは、どのような雪のコンディションに対しても技術に差がない滑りが出来るようになる事だと思います。もし準指導員の資格の取得に少しでも挑戦しようと思っている方は迷う事なく挑戦していただきたいです。養成講習会では沢山の技術を習得する事も出来ますし、スキー仲間との出会いもあります。これからは「この先生とスキーをしていると楽しい」と思われるような指導者を目指していきたいです。

「私とスキー」

準指導員合格 近井 祐介

私は、藻岩山の中腹で育ちました。玄関からゲレンデまでは、スキーを担いで歩ける距離。ゲレンデまでは登りなので、着くころには汗でびしょり。でも、目の前に広がる銀世界を見ると、そんな疲れは吹っ飛ぶのでした。小さなジャンプ台を見つけては飛びに行く。リフトを降りたら、自分が乗ったリフトより早くリフト乗り場に到着できるよう急いで滑り降りる(笑)滑る楽しさを存分に味わいました。帰りは玄関前までスキーで滑って帰れる…。思い返せば、すばらしく恵まれた環境下で育ったものです。もっと、この時期に基礎スキーの技術を磨いておけば…。今となればそう考えます。中学校になってからは、ゲレンデに通う回数がどんどん減り、年に数回いく程度となりました。

次のスキーとの出会いは、就職した勤務校の関係でした。そこはクロスカントリースキーがさかんな地域でした。そのため、25歳頃から

はクロスカントリースキーを始めました。ただこれが難しい。エッジがないのですから。ですから、下りのカーブは恐怖です。50kmスキーマラソンに出た時は、カーブで前に転んだ人を避けきれなかった人が重なるようにコースを塞いでいました。

そして、3回目のスキーとの出会いが2年前でした。転勤先の学校がスキー場の目の前だったということ。スキー技術に長けた子どもを指導しなければならないこと。そのために、準指導員を受験することにし、石狩スキー連盟にお世話になることとなりました。1年目は、試験本番で雪に突っ込んでしまい、2点足りず不合格。2年目でやっと合格をすることができました。講師の先生方の丁寧なご指導と励ましあってこそ合格でした。本当にありがとうございました。今後は、スキーの楽しさを広められるよう努めていきたいと思っています。

「私とスキー」

準指導員合格 五十嵐 秋雄

私の生まれは、信州長野です。皆様「でしたらお上手ですね」。と仰います。当時は、誰でもスキーをするわけではなく、ごく限られた方々でした。中2の時友人と、戸隠スキー場に行ったのが初めてでした。歩くこともままならず、友人のお父様の手ほどきを受けリフトに降りましたが、滑れず歩いて降りた記憶がございます。いつか、あの斜面を滑れたら良いなあと思った一日でした。

平成5年社命で、札幌勤務となり、テイネハイランドでレッスンを受けておりました。どんな斜面も滑りれるようになることが目標でした。級と取るとか、指導員になると

かは、努々思ってもおりませんでした。どの職業も決して楽ではないですが、大変厳しい業界でした。スキーすることで、ストレス発散され、冬になればスキーができると辛い仕事も耐えれました。

2000年に札幌を終の棲家としました。何回かの転勤後、3年前に定年を迎え、時間的・精神的な余裕が生まれ、レベルアップをめざしスキー教室に再び通い始めました。スキーによって健康で楽しく人生を過ごすことができスキーの楽しさを一人でも多くの方に伝えたい伝道師に成ることが次の夢となりました。「だったら、指導員にならなくちゃ」と友人の後押しもあり受験することに相成りました。初回は、不合格で、打ち上げの席で「2度と受けません」。と宣言しました。

一年をおき諸先輩の強い勧めで再受験いたしました。前回にまし一生懸命に練習に励みました。月並みですが何事も、目的（目標）を持って諦めず、一步一步自分のペースで歩み続けることと改めて思いました。今後は、子供たちに、ゲレンデに遠ざかっていた中高年にスキーの楽しさを伝えられたら良いなあと思う次第です。

「スキーへの想い」

準指導員合格 宇宿 行典

「受検番号124番」平成27年3月8日  
準指導員検定南会場にて、念願の実技検定合格。疑惑の合格でしたが、思わずガッツポーズ。石狩連盟の講師の方々、本当に感謝しております。

さて、鹿児島県出身の私がスキーを本格的に始めたのは、職場でスキーが執拗に迫られた平成19年の事でした。職場で教わる人もいなかったため、ばんけいスキースクールで

4年間密かに練習をし、そこでスキーの楽しさ及び奥の深さを知り、その魅力に取りつかれていきました。スキー技術向上はもとよりスキーを通じた人との出会いに感謝・感激しその想いを共有する手段として、準指導員受検を決意しました。甘くない準指導員検定。挫折、挫折の毎年。何度、心が折れそうになったことか分かりません。ただ、スキーへの熱い想いは、変わりませんでした。挫折する度に落ち込みはしましたが、その反面、得るものも大きかった。人との出会いに感謝・感激。石狩スキー連盟で、最も同期が多いスキーヤーとっております。また、挫折する度に、スキーの基礎をみっちり反復演練しました。特に、スキー場で緩斜面になると無意識にプルークボーゲンを悶々とやってる自分に、「もういいよ。スキーを楽しんで。ん？まだまだあと少し。」と言っていました。

最後に、準指導員検定にあと一步の皆さん、諦めないでください。「練習は、成功のカギ」いやいや「忍耐は、成功のカギ」です。耐えて、耐えて壁を乗り越えてください。準指導員を目指した時を忘れず頑張ってください。スキーへの想いを大切に。



## 『2015シーズンを終えて』

指導員合格 鈴木珠美

準指導員を取得して14年、今シーズンようやく指導員受験をする決意ができました。その間、出産を経験し人の親になり行き詰まりの子育て、スキーをすることを諦めた数年間がありました。

11歳になる1人息子。自閉症という先天性の障害を抱えてこの世に生まれ、私を待っていた現実には介助、療育、訓練の日々でした。辛かった日々も気付けば4年の歳月が経ち、息子は介助付きで幼稚園に入園。時間が出来たことで私は大好きだったスキーを再開し、オフトレとして未経験の水泳とインラインを始めてみました。プールへ毎日のように通う日々が続き、インラインも技術選に参加する若き選手達と共に、きついトレーニングにもめげず雪が降り積もるまで練習の日々を重ねてきました。2009年テクニカルプライズに合格。

同年から教育本部の4大会でもある北海道マスターズスキー技術選手権大会に参戦。仲間と共に熱戦を繰り広げること7年、好成績を残しました。

2011年に石狩へ転勤。多動だった息子も小学校へ上がる頃には落ち着きを見せ、夢にまで見た親子で一緒にスキーも実現できました。明けない夜はない、暗闇のトンネルから抜け道を見つけたような嬉しさでした。オフトレでしていた水泳も指導員資格を取得し、現在は水泳指導に携わる傍ら大会にも参戦するようになりました。

一段一段の階段を登りつめていく中で、最後に残されたスキー指導員受験。養成講習会、筆記試験、2日間に渡る実技検定、その他に家事、育児、仕事、そして大会を含め何足もの草鞋を履き全てを達成できるのか不安はありましたが全力を尽くしました。石狩連盟の諸先生方、家

族や周りのサポート、スキー仲間の支えや応援を頂いたお陰で私は合格する事ができました。そして何よりも共に受験した仲間は私にとって一生に残る宝のような存在。携わった方々皆様に感謝です。ありがとうございました。

